

名古屋グランパス 15 MF 稲垣 祥 選手 スペシャルインタビュー

スタジアムライフ+2022 春号にてお届けしきれなかったインタビューのフル ver.を大公開！



Jリーグ YBC ルヴァンカップ 決勝 名古屋グランパス vs セレッソ大阪
優勝を手繰り寄せる 2 点目のゴールを決めた稲垣選手

Q. 2021 シーズンに大活躍できた要因は何だとお考えですか？

チームとしてはルヴァンカップのタイトルが獲れましたし、個人としてはJリーグ月間 MVP、ルヴァンカップ MVP、Jリーグベストイレブンなどをもらうことができ、昨シーズンはとても充実した一年になりました。これまでも自分なりに努力してきましたが、今までのキャリアを通しての積み重ねが、成果としてより多く出せたのが 2021 年だったと思います。昨シーズンに何か特別にやったとかではなく、積み重ねの結果です。

Q. 沖縄キャンプについてお聞かせください。(取材当時：沖縄キャンプ中)

今年から監督が変わって、新しいサッカー、新しい表現をするために、実戦形式などを通じて一つひとつチャレンジして積み上げていきたいです。沖縄ではずっとホテルでの食事ですが、沖縄料理をいくつか味わえています。ゴーヤーチャンプルはもともと好きなので、現地でも好んで食べています。

Q.ゴールを決めた時の笑顔が最高です。何か意識してますか？

そう言ってもらえるなんて…自分ではナチュラルなつもりでした(笑)。勝手に感情が爆発しているのかも？(笑)。(ボランチは)そこまで点が獲れるポジションではないので、ゴールパフォーマンスについてはストライカーの方が持っていると思います。

Q. 稲垣選手の他の選手にはない強み、ストロングポイントは何ですか？

広いエリアをカバーできるスキル、ボールを奪いきる能力、遠いレンジからのシュート力が自分の特徴。厳しい状況になればなるほど、自分の力を発揮できているように感じています。(メディアから)「グランパスの心臓」と言われることについては、嬉しいし光栄なことです。まずは試合に出ることが重要ですから、そう考えると試合に出続けられるだけの身体、ケガをしない身体をつくれることが最も大きなストロングポイントかもしれません。

Q. チーム内で仲のいい選手はどの選手？

高校時代から知っている長澤選手とは一緒にいる時間が多いです。プライベートでもご飯をいっしょに食べたりします。相馬選手ともいろいろ話をすることが多いです。



©N.G.E.

Jリーグ YBCルヴァンカップ 準々決勝 第1戦
2点目となるゴールを決め、宮原選手（左）とニッコリ笑顔の稲垣選手

Q. ホームである豊田スタジアムについてどんな印象を持っていますか？

素晴らしいの一言です。僕がグランパスに来てからはコロナの影響で制限がある試合ばかり。超満員や大声援のなかでの試合がまだ経験できていないので、いつかぜひ経験したいです。豊田スタジアムはスタジアムそのものが作り上げる雰囲気というか、独特の空気感があると思います。今こうしてグランパスの選手としてプレーしてみると、そんな豊田スタジアムをホームとして戦えることが心強いです。逆に、グランパスに来るまでは、その雰囲気がプレッシャーに感じてイヤだなあ、という印象でした(笑)。

Q. 豊田で過ごしたことはありますか？

それがまだないです(笑)。豊田スタジアムも、まだ建物としての造りがどうなっているかわかっていないくらい。試合の時はピンポイントでの移動が多いので…。幸いにも、これまでは出場メンバーとしてベンチかピッチ上にしか居たことがないので、スタジア

ムのスタンドから見る景色も味わったことがないんです。このままメンバー外になることなく試合に出続けられたら一度もそうした経験ができないことになりましたが…。でも一度くらいはスタンドからの景色や雰囲気味わってみたいですね。

Q. 豊田スタジアムで一番記憶に残っているシーンは？

グランパス加入後の昨シーズンの天皇杯準々決勝でセレッソ大阪に 0-3 で負けた試合も印象に残っていますが…。あれは 2018 年の 7 月でしょうか、僕がまだサンフレッチェ広島に所属していて、グランパスと試合をやった時は無茶苦茶暑かったですね。キャリアの中で一番と言っていいくらい、倒れそうになるくらいの暑さでした。それが一番印象に残っています。

Q. グランパスファミリーは稲垣選手にとってどんな存在？

ファンクラブの方はもちろん、そうでない方も含めて、グランパスにはたくさんのサポーター、ファミリーがいてくれている印象です。豊田スタジアムでの応援の凄さ、ボリュームの大きさや人数の多さは、グランパスサポーター、ファミリーの魅力の一つだと思います。僕がグランパスに入る前から、豊田スタジアムやチームへの印象は強いです。早く満員のなかでの試合を味わいたいですね。ファミリーの声援を背に受けてプレーをするのは、僕はもちろん誰にとっても力強いですし、原動力になるくらいのパワーがあると思います。

Q. 2021 シーズンはルヴァンカップ優勝、ACL ベスト 8 などチームが躍進。個人でも J リーグ月間 MVP、ルヴァンカップ MVP、J リーグベストイレブン、愛知トヨタランクル賞と個人タイトルもたくさん獲得されました。改めてチームの躍進と、個人で活躍できた要因についてお聞かせください。また、具体的に取り組んでいることはありますか。

まずはケガをしないこと。試合に出続けるためには日々の積み重ね以外何ものでもないです。ピッチ上ではあらゆることを意識しながらプレーしますが、ピッチを離れたところ、日々の生活どれだけ自分の身体に向き合い、自分なりのやり方を見つけて工夫しながらコンディションを保つか。その術を持っているかどうかということも、サッカー選

手としての大事なスキルだと思います。日常生活においてのそれは数を挙げたらキリがないほど。例えば、体を温めることもその一つ。夜はしっかりと湯船に入ったり、朝起きたら白湯を飲んだり、足湯に入ったりしています。

Q. 無尽蔵なスタミナ、抜群の得点感覚がピッチで目立ちます。走り負けないスタミナはどうやった身に付けたものですか？また、得点感覚が鋭いのはサッカーを始めた頃から？

もともと持久力があったということもありますし、トレーニングなどで努力してスタミナが付いてきたということもあります。それを武器としてずっとやってきました。食事でも影響してくると思うので栄養面にも気を配っています。高校時代からシンプルに走るトレーニングは相当積んできたので、それが今になって財産となり、生きているんでしょうね。何より、グランパスというチームが僕を咲かせてくれたのだと思います！

ボランチでありながら得点に絡むことについては、特別に意識していることはないです。ただ、自分自身、小・中学校ではフォワードなどの前線に近いポジションだったので、その時の感覚が今も残っています。そして今プロの世界でプレーしていて、特に日本代表では素晴らしい選手がいっぱいいるなかで「じゃあ自分はどこで差をつけて勝負できるか」と考えたら、強いメンタルやボールを奪えるプレーもありますが、「ボランチとして得点を奪えるタイプは他になかなかないな」と。そんなイメージを描きながらプレーをしてきたので、それがいい形になってきているのかなと思います。

Q. 2021年、2022年と日本代表（トレーニングキャンプ）に召集されましたが、ご自身にとってどんな経験になったと感じていますか。

純粹に楽しかったです。普段とは異なった環境のなかで普段と違うメンバーと一緒にやれたことが楽しかった。グランパスというチームがシーズン中で最下位だったならメンバーに選ばれにくかったと思いますが、勝ちに導いていけるボランチとしてアピールすることができて、プレー内容が評価されて選ばれたのだと思います。ただ、自分のパフォーマンスも大事ですが、何よりも「チームを勝利に導けるボランチでありたい」という思いが強いです。代表としての経験について、グランパスの若手選手たちには、他の選手やキャンプの様子を伝えることはありました。僕が代表としての経験をチームに還元できたかどうかはわかりませんが、自然とどこかでできているといいなと思います。



2021年10月30日 JリーグYBCルヴァンカップ優勝 ファミリーと共に！

Q. 今シーズン叶えたい目標や夢を教えてください。

昨シーズン、チームとしてはルヴァンカップで優勝しましたが、今シーズンはそれ以上の成績を求められると思います。グランパスはどのタイトルでも優勝争いができる位置に居なければいけないチームだと思うので、今シーズンもそういったチームでありたいです。個人としては、2021年は周りから評価していただけだったので、次は僕のサッカーキャリアのなかでどれだけ上に行けるかという、チャレンジの年になると思います。僕自身もそれに向けて、それが実現することを期待しながら臨みたいです。

Q.最後に、グランパスファミリーの皆さんにメッセージをお願いします！

昨シーズンは応援ありがとうございました。今年も昨年以上の成績を出していきたいですし、それを達成するためにファミリーの皆さんの存在、背中を押していただく力が選手に必要です。ぜひ応援よろしく願いいたします！

(終)